

<年長組 2015 年度年間目標>

- ・希望を持って生きる
- ・他者と共に生きる

<二学期の保育の視点（願い）>

- ①旧約聖書のモーセの物語・十戒を通して、神さまの大きなご計画を知り、私たちのことを愛し続けてくださっていることを知る。その神さまが独り子イエス・キリストを私たちのために送ってくださったことを感謝する。
- ②自分でやりたい遊びを選び、一人でもなかまとも遊びに取り組み、満足感を味わう。
- ③友だちとの関わりの中で、自分の気持ちだけではなく、相手の気持ちを知り、折り合いをつけることを経験する。
- ④秋の気持ちの良い季節を感じ、体を思い切り動かすことを楽しむ。
- ⑤身の回りのことに気づき、すすんで自らやる。
- ⑥秋から冬にかけての季節の移り変わりを五感で感じる。

「いっぱい走ってきたよ！」

保育の視点②・④より

二学期が始まり、一学期からの続きの遊びを楽しむ子どももいれば、新しい遊びやなかまと出会っている子どももいます。

そのような中、そら組もはやし組も 9 月のある晴れた日に、クラスの集いの中でタッチリレー（バトンを持たず、前の走者が次の走者に手と手でタッチをするのがバトン代わり）を行いました。

それぞれチームごとに芝生の上で一列に並び、自分が走る順番を待っています。初めのうちは、前の友だちが走り始めても「〇〇ちゃん、がんばれー！」と応援していたため、次の走者がバトンゾーンにおらずパスがスムーズにいかないこともありました。でも、何度かやっていくうちに少しずつ楽しさがわかってきた子どもたちでした。

ある日のお弁当の後の自由な遊びの時間に、A ちゃんが「タッチリレーをしたいから、ハチマキ持ってくるね」と私のところへやってきました。私が「そう、タッチリレーやるのね。なかまは集まった？」と聞くと、「うん、〇〇ちゃんと〇〇ちゃん、それから・・・」と言います。そのなかまの中には、A ちゃんといつも一緒にいる友だちだけでなく、男の子も女の子もいろんな子どもが集まって混ざり合いました。チームを決めたり、ラインカーで線を描いたりし

て準備をし、タッチリレーが始まりました。「ぼくも（私も）やりたい！」と、なかまが増えていきました。

室内での遊びが好きな B ちゃんは、年長の前の入り口のところに立って、タッチリレーを眺めていました。保育者は B ちゃんに「B ちゃんも走るのが好きよね。やってみましょうよ」と誘いかけると、少し考えてから頷き、外に出て行きました。そしてリレーのなかまとなって、何度も何度も走っていました。

片づけが終わり、リレーをしていた子どもたちが部屋の中へ戻ってきました。「ああ～いっぱい走った～！」「汗びっしょり！」などと口々に言っています。A ちゃんや B ちゃんを含め、その子どもたちはさわやかな表情をしていました。

このタッチリレーがきっかけで、子どもたちの遊びの中では、少しずつ“きょうのうんどうかい”が始まっています。チームに分かれて競い合う中で、子どもたちは勝つことの喜びを感じたり、負けることの悔しさや葛藤を覚えています。なかまと力と心を合わせることの楽しさと難しさを知っています。一つひとつが、一緒に生きる“なかま”として成長していくためのプロセスだと思います。



秋の日に、神さまからいただいた体と力を、なかまと共に使うことの喜びと気持ちよさを、子どもたちと一緒に感じていきたいと思っています。

たのしみ会を楽しみに待つ子どもたちの姿から

年長組年間目標－他者と共に生きる－より

私たちは、子どもたちがデイキャンプや追分キャンプで、それぞれのグループごとになかまと共に相談し、楽しんだことをもう一度、年長組みんなと共有する時間を計画しました。

9月の半ば頃、そのことを子どもたちに伝え、それぞれグループに分かれて何を楽しみたいかを決める相談の時を持ちました。それを聞いた子どもたちは、早速グループのなかまと共にワクワクしながら集まり、頭を突き合わせて何にするかを考えていました。「あれがいいよね」「そうそう、あれあれ」と満場一

致であつという間にやることが決まったグループもあれば、「どうしようか・・・」
「一人ずつやりたいことを言ってみて、多かったものにしようか」と、相談に
時間をかけるグループもありました。

それでも、どのグループも、自分の意見を伝えつつ、なかまのことを思い合い
ながら話し合っている姿があり、子どもたちの成長を感じることでありました。
それと同時に、それが子ども自身にとって、喜びとなり、楽しみとなっている
ことも伝わってきました。

それぞれの話し合いが終わり、各グループのすることが決まりました。どの
グループがいつやるのかをカレンダーの表にして、子どもたちに見せました。

その後、そのカレンダーの表は子どもたちがいつでも自由に見られるように、
保育室の一角に置いておきました。子どもたちは、このカレンダーの表を見な
がら、「あ、ぼくたちは明日だ」「わたしは今度の金曜日」などと、それぞれ自
分の番を確認していました。

自分たちの番がくると、どの子どもたちも少しの緊張はありながらも、心を
合わせて楽しそうに、嬉しそうに、そして満足気にみんなの前に立っていました。
見ている子どもたちにも嬉しい時でした。

自分を表現したり、相手を思いやったり、協力したりしながら、共に心を動
かして過ごしていけるようにと願っています。

(佐々木 花)